－ 神通川・高原川流域の安全と暮らしを守る －

神通川水系直轄砂防事業

令和7年度 事業概要

国土交通省北陸地方整備局

神通川水系砂防事務所

■ 1. 流域の概要

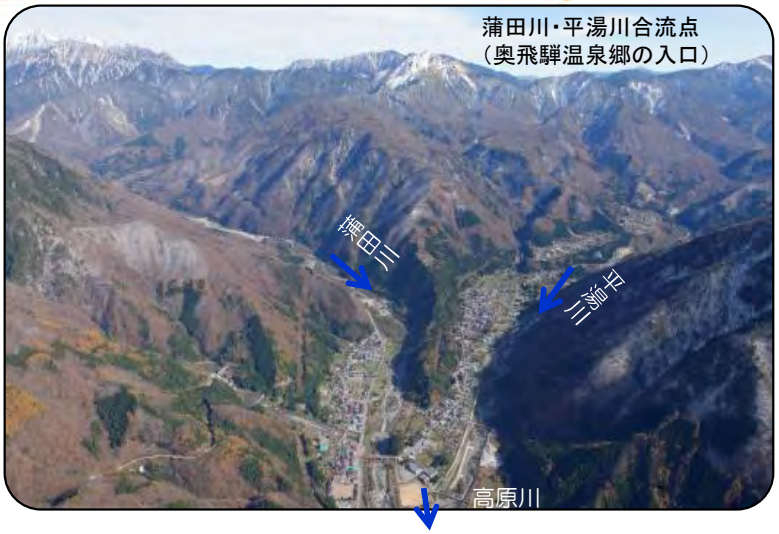
① 神通川の概要

神通川は岐阜、富山両県にまたがり、その源を川上（カオレ）岳（標高1,625.9m）に発し、流域面積2,720km²、幹川流路延長120kmの一級河川です。流域内には約38万人の人々が生活しています。
神通川右支川高原川は、流域面積781.6km²、幹川流路延長59.4kmであり、神通川水系砂防事務所では、新猪谷ダムより上流の761km²で砂防事業を実施しています。

富山市街を流れる神通川
（市街地中心部の神通川河岸には富山空港）

砂防基準点
（新猪谷ダム_北陸電力）

神岡町内
（神通川は富山平野を流下し日本海へ）



蒲田川・平湯川合流点
（奥飛騨温泉郷の入口）

② 焼岳を中心とした崩壊多発地帯

高原川流域の地質は脆弱で、北アルプスでは造山運動により年間4～5㎜隆起していると言われ、不安定な地質構造を呈して土砂生産が著しい流域となっています。特に、平湯川流域は活火山焼岳などからの火山噴出物が厚く堆積して荒廃地を形成しています。また下流の跡津川は、安政5年の飛越地震（M7.1）の原因である跡津川断層があり、深層崩壊の危険性が高い地域となっています。

焼岳火山は飛騨山脈(北アルプス)南部、岐阜県（高山市）と長野県（松本市）の県境に位置しており、乗鞍火山帯(列)に属する火山で周辺には、約10万年前より新しい時代に形成されたアカンダナ山、白谷山、岩坪山、割谷山があります。

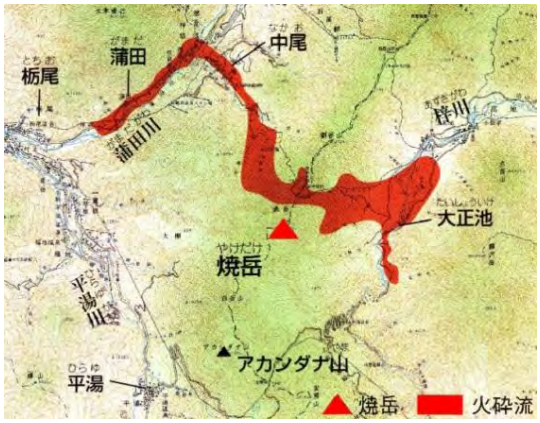
これらの火山のうち、焼岳(標高2455.4m)とアカンダナ山(標高2109.4m)の2火山が活火山として現在も活動しています。

火砕流の流下想定図

昭和37年6月の焼岳噴火

現在の焼岳（山頂北峰）

約2300年前の中尾火砕流の想定到達域



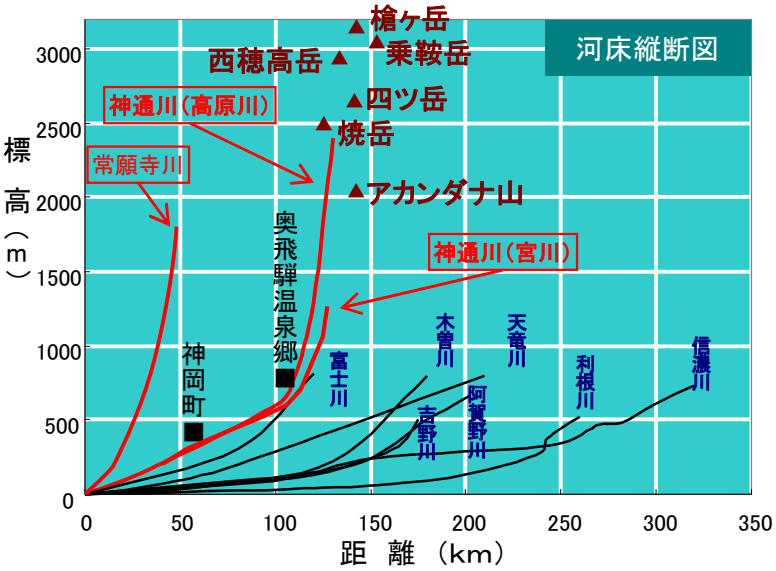
③ 上流域の状況（蒲田川・平湯川）

脆弱で崩れやすい地質、急流河川という地形条件に加え、多雨多雪地帯という気象状況によって、下流域に土砂が大量に流出しやすい流域特性をもっています。

地質条件　＝　崩壊しやすい地質
焼岳等の火山活動、北アルプス、跡津川断層
：火山性堆積物、高山性崩壊地、不安定な地質構造

地形条件　＝　急流河川
平均河床勾配　：　1／20（基準点上流）

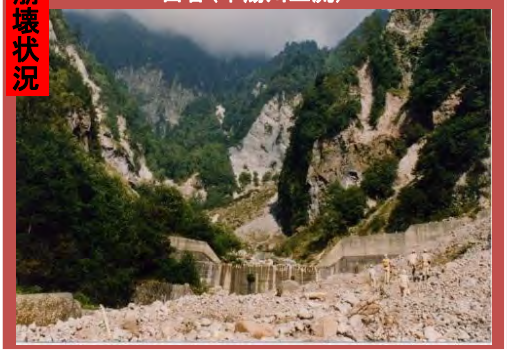
気象条件　＝　多雨・多雪地帯
年間降水量　：　上流山岳地帯で　3,000～3,200mm
高原川上流部で　1,700～2,500mm
（日本の平均値　1,700mm）



★年間降水量の分布

崩壊状況

白谷（平湯川上流）



柳谷（蒲田川上流右俣谷）

奥丸山（蒲田川上流左俣谷）

土砂発生状況

白出沢（蒲田川上流右俣谷）

小鍋谷（蒲田川上流右俣谷）

柳谷（蒲田川上流右俣谷）

■ 2. 流域の災害

◆ 災害履歴

明治	5(1872)	飛騨市神岡町の六郎谷で崩壊発生。
	22.7.24	高山市奥飛騨温泉郷の外ヶ谷右岸において大崩壊発生により天然ダム形成。
	29.7.21	飛騨市神岡町の鹿間谷（神岡鉱山）で崩壊発生。家屋3戸崩壊。洪水により船津・大島・東町は2階まで浸水。
	32.9.8	飛騨市神岡町の六郎谷で豪雨により崩壊発生。船津町牧ヶ平県道約108mほど崩壊。高原川河道両岸より埋塞し、船津東町一時湖水化懸念されるも45分間で流通。
大正	3.8.13 ①	宮川、高原川の大洪水、飛騨市神岡町東町の**浸水家屋38戸**、大島町では田を流出。山田川では**宮下橋及び家屋5戸流出、溺死者3名。この災害が契機となり大正8年より宮川流域で直轄砂防事業着手**。
		富山県知事：旧吉城郡等を富山県に編入し、水系一貫した理想的治水対策を主張（飛騨第71号） 富山県通常県会で旧岐阜県吉城郡等の合併を議決。（富山市史通史＜下巻＞）
	9.6.28 ②	高原川で大洪水。飛騨市神岡町や高山市上宝町吉野、見座、新田、岩井戸、長倉各地内の沿岸田畑多く浸水し、高山市奥飛騨温泉郷の**蒲田温泉は集落とともに流失し全滅。富山平野西部一帯浸水3000戸。**
昭和	28.7.23 ③	外ヶ谷上流で大崩壊を起こし、翌日土石流が発生。**死者3名、放牧中の牛10頭流失。** **堆積土砂は東京ドーム約4個分。**（東京ドーム1個：約124万m3）
	33.7.26 ④	高原川で台風11号による集中豪雨で大洪水。飛騨市神岡町アワラ・数河地内の堤防決壊。 **富山平野浸水779戸。**
	36. 7.1 ⑤	蒲田川、平湯川の**総雨量404～465mm**に達し、高山市奥飛騨温泉郷神坂、栃尾、今見、高山市上宝町岩井戸など各地で土石流が発生。家屋の流出・埋没、道路決壊、流出など被害は甚大。
	37.6.17 ⑥	焼岳大噴火。岐阜県側の山腹に長さ約500mの割れ目（新火口）形成。 多量の噴石、降灰、火口付近の**山小屋で負傷者2人。** その後の降雨により堆積土砂が流出し、**足洗谷で土石流が6回発生。**
	54.8.22 ⑦	洞谷で約7万m3の大量の土砂による土石流発生。 **死者・行方不明3名、家屋被害52戸**など被害大。
平成	9. 7.10	左俣谷で梅雨前線による土砂崩壊発生。**崩壊土砂は約30万m3。**
	10. 9.22	左俣谷穴毛谷で台風8号による土石流発生。**流出土砂量は約15万m3。**
	11. 9.15 ⑧	神通川上流（宮川・高原川流域）で台風16号による土砂流出に伴う大量の倒木発生。 神通川を流下し、富山湾に**甚大な流木被害が発生。**
	14. 7. 3 15. 8.18 16. 7.25 16. 8. 9	白谷で平成14年7月、15年8月、16年7月、同8月と土石流が発生。 しかし、流出した土砂は白谷堰堤群に捕捉され、下流への被害は発生せず。 平成14年以降毎年土石流が発生し、富山から松本、関東方面への重要な輸送路である**国道471号は、頻発する土石流により通行止めの危険性がある。**
	16.10.20	神通大橋地点で台風23号により、**危険水位を超え、計画高水位まであと28cmに迫る。**上流から大量の土砂が流出した場合、さらに水位が上昇する恐れがあり、資産の集中する**富山平野が氾濫の危険にさらされた。**
	18.7.15	白谷・岩坪谷・外ヶ谷・小鍋谷・柳谷等で「平成18年7月豪雨」（7月15日～19日）による、土石流が発生。 また、新穂高・外ヶ谷等で**土砂流出による被害（施設災害）が発生。**
	20.8.19 25.8.15 26.7.9 28.8. 1 29.7.4 30.9.10	白谷で平成20年8月、25年8月、26年7月、28年8月、29年7月、に土石流が発生。 **平成30年は6月から9月までに9回の土石流が発生。** いずれも白谷砂防堰堤群に捕捉され、下流域への被害は発生せず。
令和	1.8.23 1.8.29 2.7.10	白谷で**令和元年8月に土石流が発生。** 白水谷･黒谷で**令和元年8月に土石流が発生。**いずれも堰堤群に捕捉され、下流域への被害は発生せず。 「令和2年7月豪雨」により**白谷・岩坪谷で土石流が発生。**平湯川、蔵柱川では護岸決壊が発生。 国道471号では路側決壊6カ所、土砂流出7カ所により各所で通行規制。
	3.7.11	白谷で**令和3年7月に土石流が発生。**下流域への被害は発生せず。
	4.5.24 4.6.21 ⑨	焼岳に**火口周辺警報**（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表。その後、令和4年7月12日に**警報解除** 白谷で**令和4年6月に土石流が発生。**下流域への被害は発生せず。
	6.1.1	**令和6年能登半島地震**により、高山市上宝町本郷で**震度5弱。**管内被害は発生せず。
	6.7.25	白谷で**令和6年7月に土石流が発生。**下流域への被害は発生せず。

■ 2. 流域の災害

②

大正9年6月
神通川の大氾濫

⑧

平成11年9月（台風16号）
富山湾等で流木災害

昭和2年12月
六郎谷の土砂流出状況

⑤

昭和36年7月
冠水した建設中の富山空港

⑦

昭和54年8月洞谷（土石流災害）
（死者・不明3名、家屋被害52戸）

①

大正3年8月　宮川小豆沢の流出土砂状況
●宮川流域の各渓流から流出した大量の土砂が川を堰き止め、村は一面湖沼化。死者36名と被害は甚大。
●この災害が契機となり**大正8年より宮川流域で直轄砂防事業着手。**

②

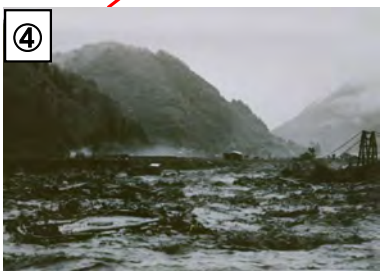
大正9年　上宝村　蒲田川筋
（現高山市奥飛騨温泉郷蒲田温泉・集落ともに流失し全滅）

③

昭和28年7月
外ヶ谷の大崩壊で天然ダム形成

②

大正9年6月　船津町
（現飛騨市神岡町）東町の土砂氾濫



④

昭和33年7月災害　村上橋流失
（現高山市奥飛騨温泉郷）

⑨

令和4年6月 降雨の状況
白谷での土石流発生状況

⑥

昭和37年6月　焼岳噴火
（後の降雨で足洗谷にて土石流発生）

■ 3. 事業実施のポイント

事業実施の柱

① 火山地帯であり荒廃が著しい高原川流域における土砂流出対策
② 下流域への被害軽減のための流木対策
③ 大規模土砂災害・深層崩壊対策
④ 活火山焼岳の噴火に備えた火山噴火減災対策

① 土砂流出対策

高原川上流域は、荒廃が著しく気象条件も厳しい急流荒廃河川です。近年では平成9、10、18年と土石流が発生し、その土砂は不安定土砂として今なお河道に堆積しているため、危険性が高い流域です。一方で、流域内の奥飛騨温泉郷には新穂高ロープウェイや複数の温泉街が地域経済の要となり、多くの観光客が訪れています。

こうした観光施設や観光客の安全・安心の確保と、下流域への土砂流出を抑制するために、小鍋谷第11号上流砂防堰堤群、江馬東町砂防堰堤群などの整備を推進します。

② 流木対策

神通川流域では、出水時に土砂とともに多量の流木が発生し、下流域の人家や施設に大きな被害が生じています。近年では平成11、16、18年に多量の流木が流出し、富山湾では定置網の損傷など甚大な被害が発生しています。

こうした下流域への被害軽減対策として、流木対策の整備を推進します。

③ 大規模土砂災害・深層崩壊対策

近年、極端な集中豪雨や台風の大型化、地震・火山活動の活発化により、土砂災害の発生頻度が高まるとともに被害も激甚化しています。飛騨地域は大規模土砂災害の一因である「深層崩壊」の危険度が相対的に高い箇所が多数存在しています。

こうした深層崩壊の危険性が高い流域において、深層崩壊対策の一環として砂防堰堤の整備を推進します。併せて、平常時から関係機関との連携を強化し、二次災害防止と緊急時に備えます。

④ 火山噴火減災対策

焼岳は近年においても水蒸気爆発を起こすなど、活発な活動を続けている活火山です。火山噴火に伴い発生する土砂災害に対して、ハード対策とソフト対策からなる緊急対策を迅速かつ効果的に実施し被害を軽減（減災）する対策を行います。併せて、焼岳火山噴火対策協議会との連携を強化し緊急時に備えます。

■ 4. 令和7年度 事業費

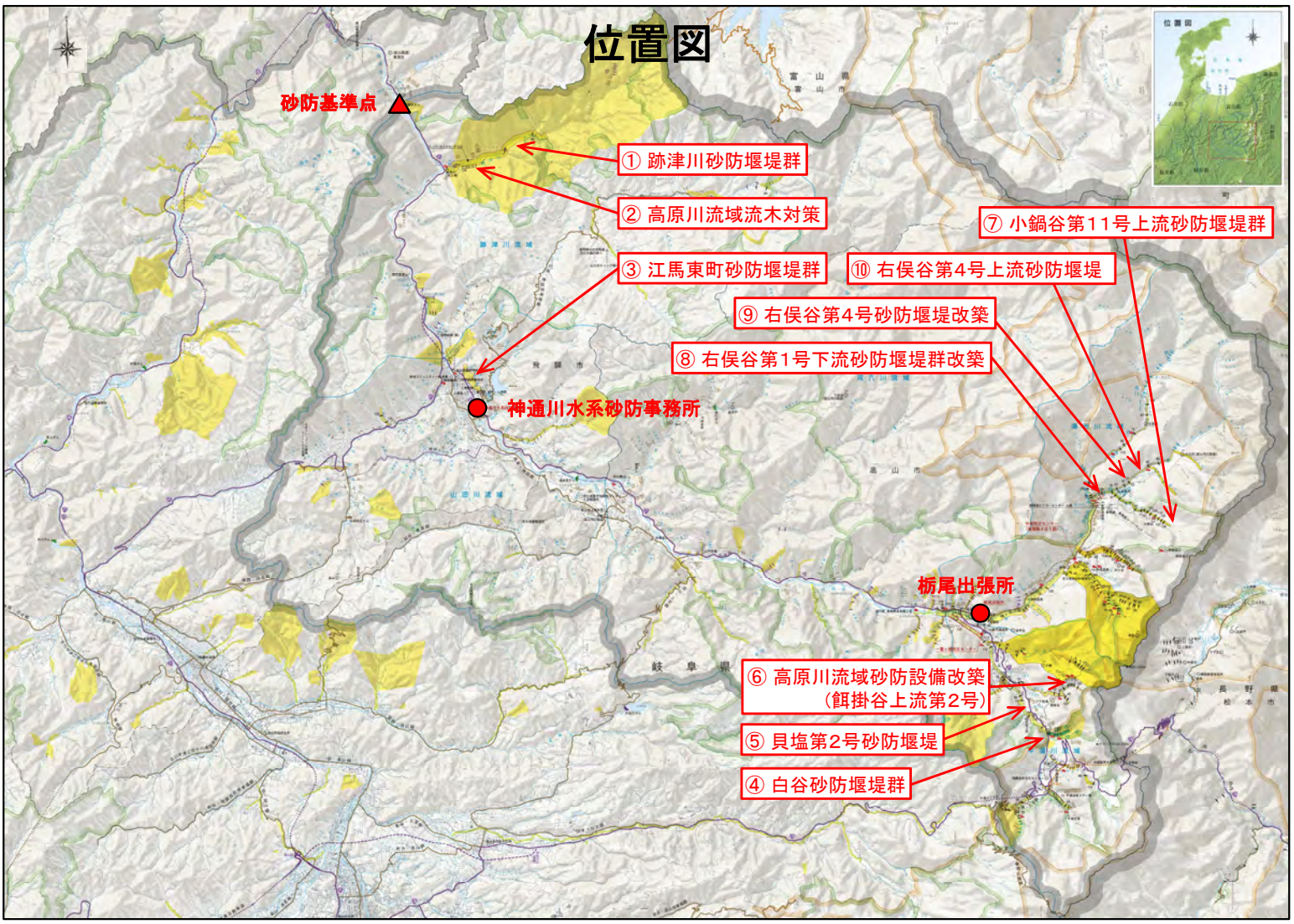
（単位:千円）

費　目	当初		予算伸率（当初比）	補正
	令和6年度	令和7年度		令和6年度
直轄砂防事業費（砂防）	917,000	732,000	0.798	30,000
直轄砂防事業費（火山）	790,000	804,300	1.018	0
合　計	1,707,000	1,536,300	0.900	30,000

※事業費は業務取扱費を除く

■ 5. 令和7年度 事業箇所

番号	箇所名	河川名			施工位置		新規・継続の別	工事概要
		水系名	幹川名	渓流名	市町村	地　区		
①	跡津川砂防堰堤群	神通川	跡津川	本川	飛騨市	神岡町跡津川	継続	堰堤工（跡津川下流）
②	高原川流域流木対策	神通川	跡津川	本川	飛騨市	神岡町跡津川	継続	流木対策工
③	江馬東町砂防堰堤群	神通川	高原川	寺ナギ 島田洞 栃洞	飛騨市	神岡町東町他	継続	堰堤工（島田洞）
④	白谷砂防堰堤群	神通川	平湯川	白谷	高山市	奥飛騨温泉郷平湯	継続	堰堤補強工（白谷1号・5号）
⑤	貝塩第2号砂防堰堤	神通川	平湯川	本川	高山市	奥飛騨温泉郷一重ヶ根	継続	堰堤工、法面工
⑥	高原川流域砂防設備改築	神通川	平湯川	餌掛谷	高山市	奥飛騨温泉郷一重ヶ根	継続	堰堤補強工（餌掛谷上流第2号）
⑦	小鍋谷第11号上流砂防堰堤群	神通川	蒲田川	小鍋谷	高山市	奥飛騨温泉郷神坂	継続	堰堤工（小鍋谷13号・14号）
⑧	右俣谷第1号下流砂防堰堤群改築	神通川	蒲田川	右俣谷	高山市	奥飛騨温泉郷神坂	継続	堰堤補強工
⑨	右俣谷第4号砂防堰堤改築	神通川	蒲田川	右俣谷	高山市	奥飛騨温泉郷神坂	継続	堰堤補強工、法面工
⑩	右俣谷第4号上流砂防堰堤	神通川	蒲田川	右俣谷	高山市	奥飛騨温泉郷神坂	継続	林道付替、堰堤工



■ 6. 事業の概要(1)

① 跡津川砂防堰堤群(高原川流域－跡津川) ： 飛騨市神岡町跡津川 地先

【令和7年度の工事概要】
砂防堰堤の整備
【全体概要】
砂防堰堤工 2基(上流・下流)
【事業効果】
砂防堰堤群の整備により、土砂流出を抑制し土砂災害や氾濫被害を軽減し、流域直下の重要幹線道路国道41号や、世界的な研究施設スーパーカミオカンデやKAGURAなどへの直接的な被害軽減を図るとともに、下流域での安全性の向上を図ります。

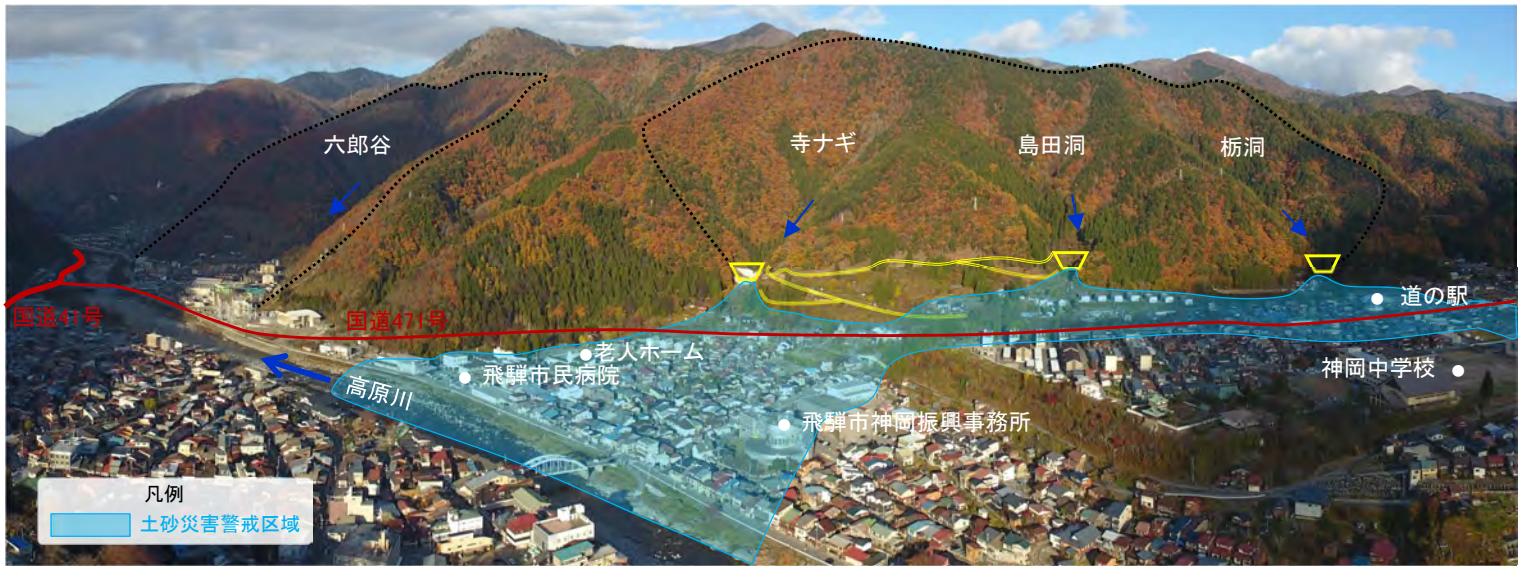
跡津川断層に沿って流れる跡津川流域は、深層崩壊の危険度の高い渓流が点在するほか、河床には大量の土砂が堆積するなど、土砂生産が著しい状況にあります。

② 高原川流域流木対策(高原川流域ー跡津川) : 飛騨市神岡町跡津川 地先

【令和7年度の工事概要】
流木対策工の整備
【全体概要】
流木捕捉工 2基
【事業効果】
跡津川において、主要な保全対象の直上流に流木対策工を整備することにより、流木による直接的被害を防止するとともに下流域への一層の被害軽減を図ります。

③ 江馬東町砂防堰堤群(高原川流域ー高原川) : 飛騨市神岡町東町 地先

【令和7年度の工事概要】
島田洞砂防堰堤の整備
【全体概要】
砂防堰堤工 3基(寺ナギ・島田洞・栃洞)
【事業効果】
砂防堰堤群の整備により土砂流出を抑制し、飛騨市神岡町内での土砂災害を防止するとともに、下流富山平野での氾濫被害を軽減し安全性の向上を図ります。



六郎谷の土砂流出状況(昭和2年12月)

高原川では、昭和2年の他、明治5年や32年に六郎谷から流出した土砂によって河道が閉塞し、大規模土石流災害が発生しています。

島田洞砂防堰堤

渓流上流側から見た神岡町内

■ 6. 事業の概要(4)

④ 白谷砂防堰堤群(高原川流域－平湯川) ： 高山市奥飛騨温泉郷平湯 地先

【令和7年度の工事概要】

白谷第1号・第5号砂防堰堤の改築

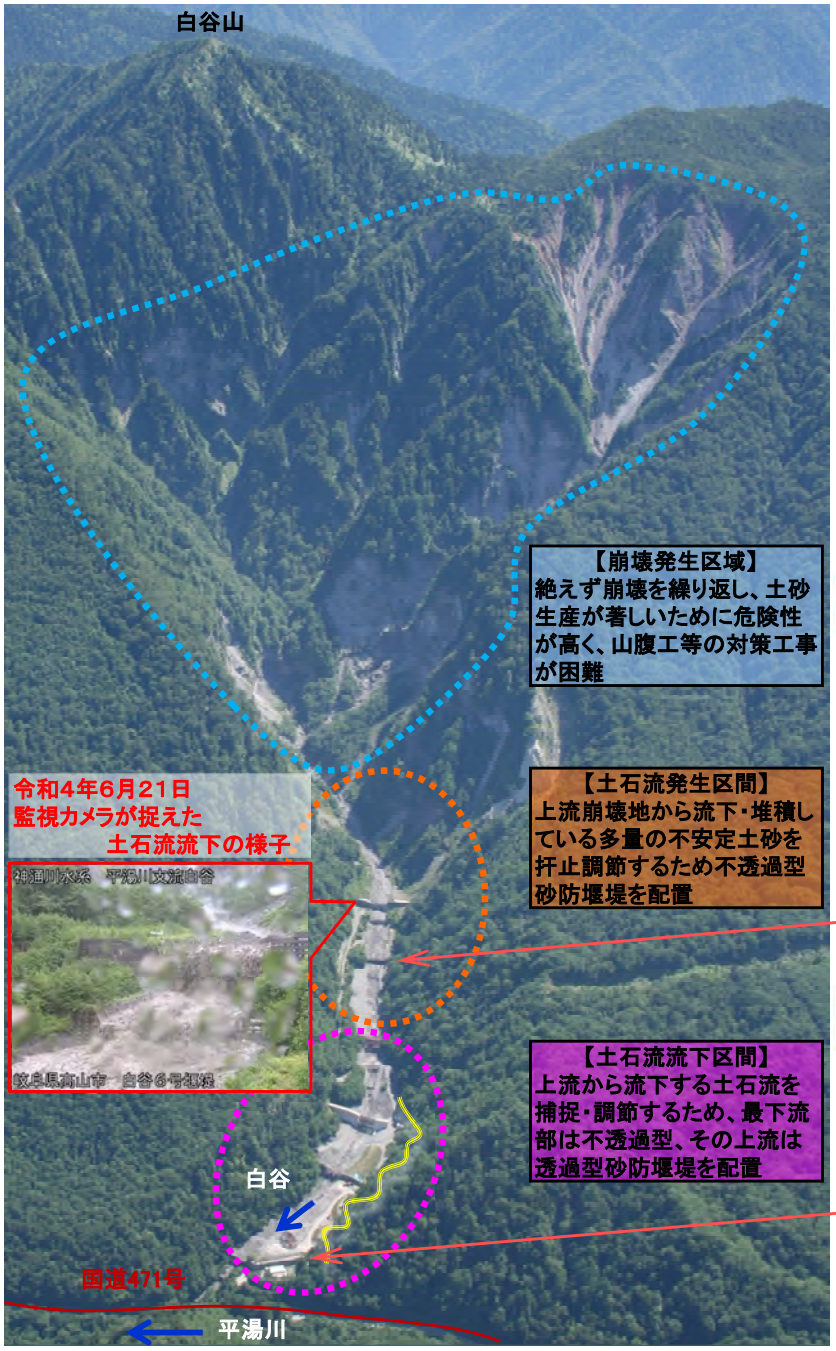
【全体概要】

砂防堰堤工 6基　工事用道路 1式

【事業効果】

土石流が頻発する白谷において、発生源対策として砂防堰堤を整備することにより、観光拠点(福地温泉街)の保全を図るとともに幹線道路・広域物流ネットワーク(国道471号)の機能を確保します。

※土石流頻発渓流である白谷では、近年(平成30年、令和元年、令和2年、令和3年、令和4年、令和6年)土石流が流下しましたが、砂防設備の効果により、下流域への被害は発生していません。



⑤ 貝塩第2号砂防堰堤(高原川流域－平湯川) :高山市奥飛騨温泉郷一重ヶ根 地先

【令和7年度の工事概要】

貝塩第2号砂防堰堤、法面工の整備

【全体概要】

砂防堰堤工 1基

【事業効果】

平湯川本川に流木捕捉施設を新設することで下流域の流木被害を軽減します。また土石流に対応する鋼製スリット堰堤を計画することにより、土砂流出の抑制を図ります。

※神通川の下流域では、平成11年(台風16号)、平成16年(台風16,18,23号)、平成18年(梅雨前線豪雨)の出水で大量の流木が流出、漂着し、富山湾では定置網の損傷など甚大な漁業被害が生じた他、港湾施設にも被害が生じました。

平成11年9月 台風16号により富山湾等で流木被害

平成11年9月 橋梁部の閉塞状況(飛騨市河合町稲越川)

⑥ 高原川流域砂防設備改築(高原川流域ー平湯川) :高山市奥飛騨温泉郷ー重ヶ根 地先

【令和7年度の工事概要】

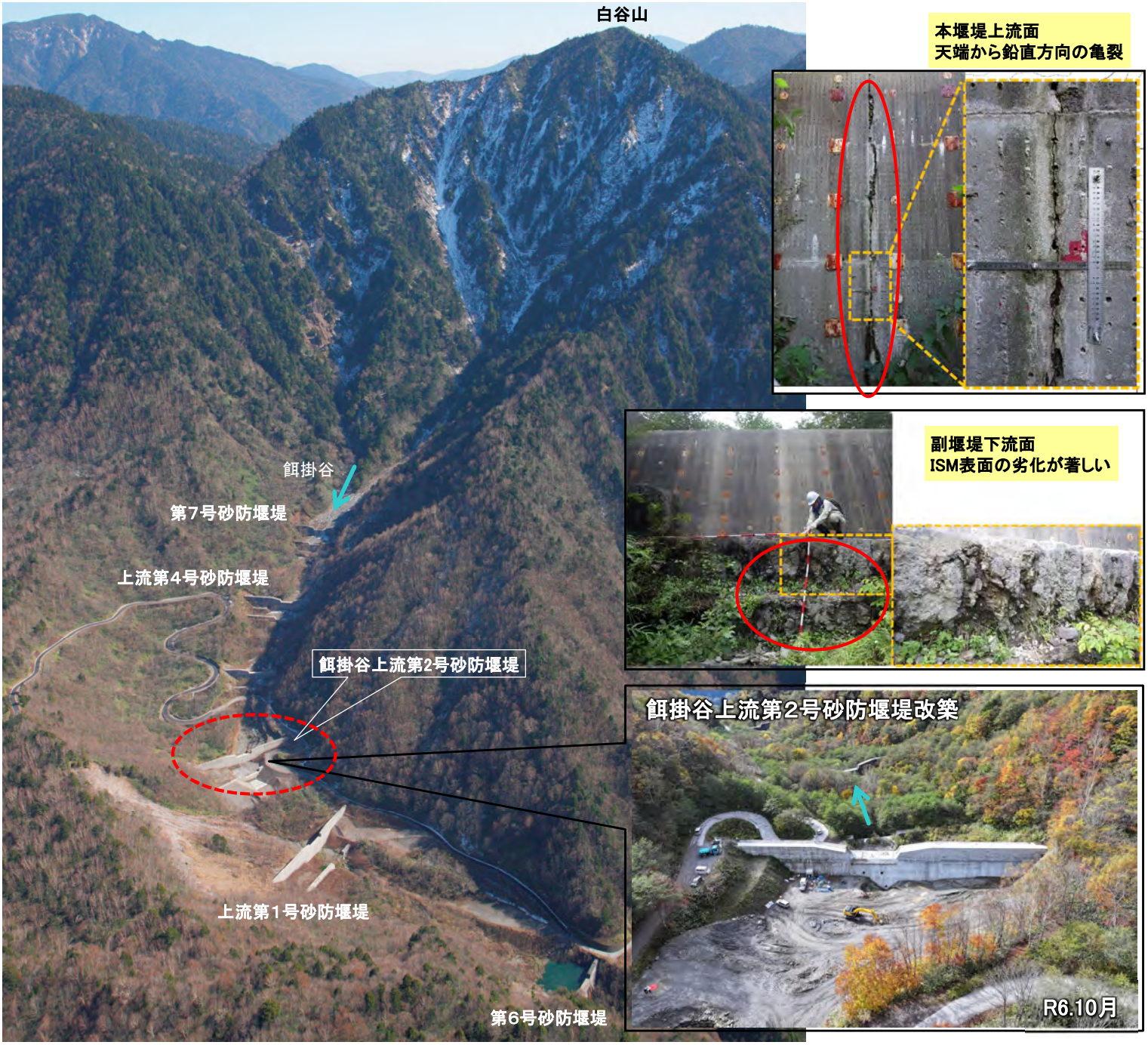
餌掛谷上流第2号砂防堰堤の改築

【全体概要】

堰堤補強工(餌掛谷上流第2号砂防堰堤) 1式

【事業効果】

餌掛谷上流第2号砂防堰堤は、平成16年完成から15年経過し基礎部の露出・劣化や堤体の一部に損傷も見られるため、補強対策等、適切にメンテナンスを行い、下流域での土砂災害に対する安全性の向上を図ります。



⑦ 小鍋谷第11号上流砂防堰堤群(高原川流域－蒲田川) ： 高山市奥飛騨温泉郷神坂 地先

【令和7年度の工事概要】

小鍋谷第13号・第14号砂防堰堤の整備

【全体概要】

砂防堰堤工 3基(12号・13号・14号) 工事用道路 1式

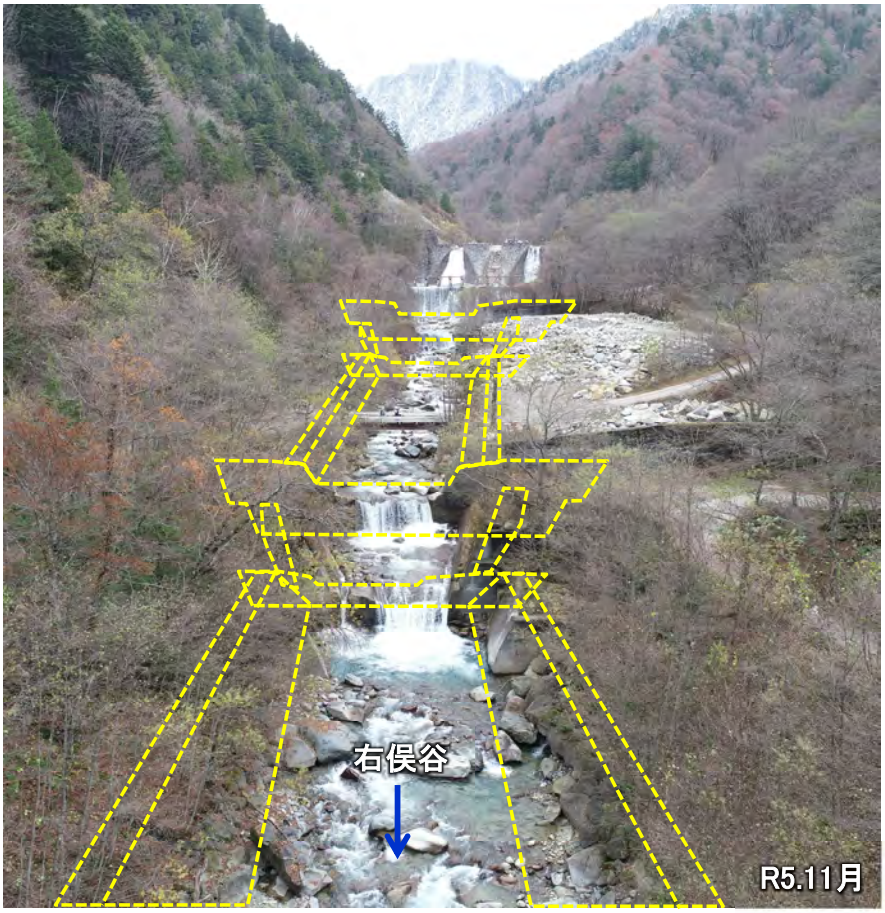
【事業効果】

砂防堰堤群の整備により、小鍋谷上流に堆積している大量の土砂流出を抑制し、下流域での土砂災害に対する安全性の向上を図ります。

※平成18年7月豪雨時には、約10万m3の土砂が流出しました。

⑧ 右俣谷第1号下流砂防堰堤群改築(高原川流域－蒲田川) ： 高山市奥飛騨温泉郷神坂 地先

【令和7年度の工事概要】
右俣谷砂防施設の改築
【全体概要】
堰堤補強工
【事業効果】
観光施設である新穂高ロープウェイや新穂高温泉の安全確保や下流域への土砂流出の抑制を図ります。また景観・親水性に配慮することにより観光インフラ整備を支援します。



袖部の劣化状況

水通し部の摩耗及び水叩き工の欠損

⑨ 右俣谷第4号砂防堰堤改築(高原川流域－蒲田川) :高山市奥飛騨温泉郷神坂 地先

【令和7年度の工事概要】

右俣谷第4号砂防堰堤の改築、法面工

【全体概要】

堰堤補強工 1式

【事業効果】

右俣谷第4号砂防堰堤は、昭和44年の完成から半世紀が経過する中、度重なる土砂流下による損傷につき、腹付工等を実施することにより、耐久性・安定性の確保を図り、下流沿川地域の土砂災害に対する安全性の向上を図ります。

本堰堤の基礎洗掘状況

本堰堤の目地損傷状況

本堰堤の水通し損傷状況

⑩ 右俣谷第4号上流砂防堰堤（高原川流域－蒲田川） :高山市奥飛騨温泉郷神坂 地先

【令和7年度の工事概要】

林道付替、堰堤工の整備

【全体概要】

砂防堰堤工 1基

【事業効果】

右俣谷は、北アルプスの造山運動や火山活動による高山性崩壊地や火山性堆積物が厚く堆積し、不安定な地質で土砂生産が激しく、流木対策も合わせた右俣谷第4号上流砂防堰堤を実施することにより、下流沿川地域の土砂災害に対する安全性の向上を図ります。

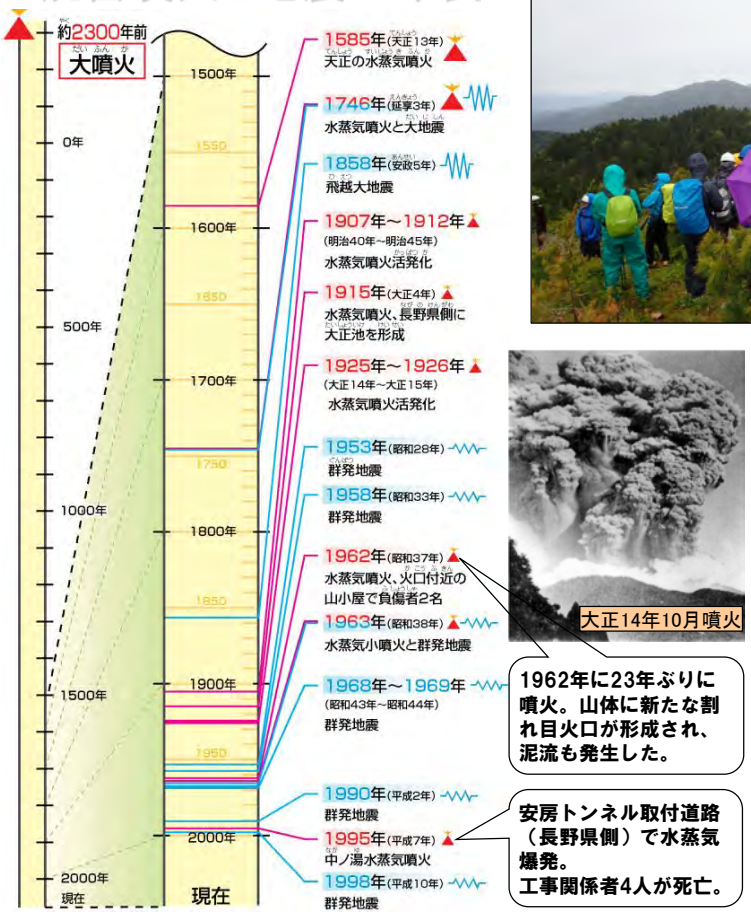
■ 6. 事業の概要（火山防災）

● 焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画

火山噴火緊急減災対策砂防計画は、いつ起こるか予測が難しい火山噴火に伴い発生する土砂災害に対して、ハード対策とソフト対策からなる緊急減災対策を迅速かつ効果的に実施し、被害を軽減（減災）することを目的に、全国49火山にて策定が進められており、焼岳は平成23年6月に『焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会』※1によりとりまとめられています。この計画に基づき、緊急除石や導流堤などのハード対策検討を進めるとともに、平常時より関係機関との合同訓練実施など、顔の見える関係構築を進めるなど、地域の安全度向上に取り組んでいます。

※1：火山専門家、砂防専門家、高山市、松本市、飛騨市、岐阜県、長野県、国土交通省等がメンバー

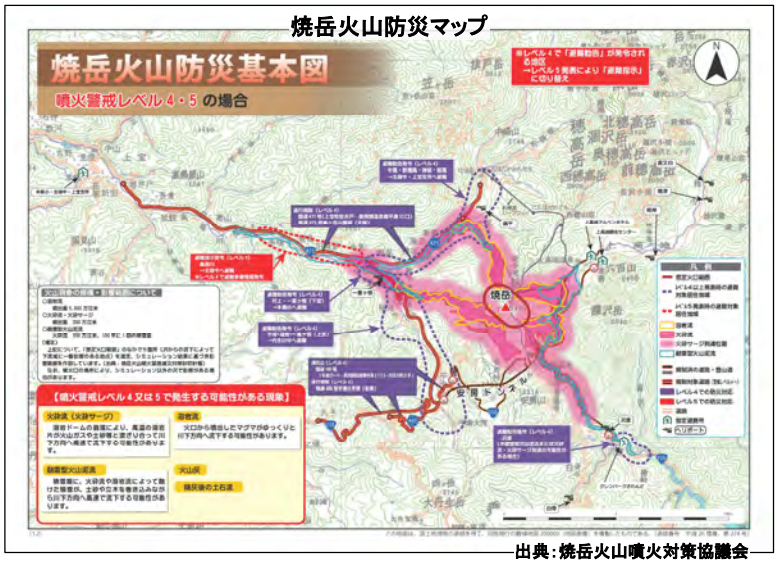
焼岳噴火と地震の年表



メンバーによる現地調査登山

焼岳火山防災訓練の様子

焼岳火山防災マップ



出典：焼岳火山噴火対策協議会

■ 6. 事業の概要（地域防災力の向上及び防災教育・啓発活動）

神通川水系砂防事務所では、高山市奥飛騨温泉郷中尾にある「奥飛騨さぼう塾」を広報拠点として地域の方々やNPO神通砂防と協力し、地域防災力向上及び防災教育・啓発活動に取り組んでいます。

◆ 奥飛騨さぼう塾 ◆

昭和54年4月に廃止となった旧中尾出張所庁舎を活用し、奥飛騨地域の砂防事業を理解してもらうことを目的とし、砂防資料館を開館しました。平成16年6月には「見る・知る・体験する」機会となることを目指して「奥飛騨さぼう塾」としてリニューアルしました。

地域の子供たちや奥飛騨の素晴らしい自然を求めてこの地を訪れる観光客や登山者、各種団体等のたくさんの方に利用されています。

◆ 土砂災害防止月間（6月）・防災訓練等 ◆

富山市内で開催される砂防フェアに参加して、神通川上流域で行っている砂防事業について、パネルや模型を使って解説しています。また高山市や飛騨市の公共施設等においてパネル展示を行っています。

砂防フェア

神岡振興事務所

各地域の防災訓練・イベントでは砂防や防災事業に関するパネル展示、地震や降雨、土石流体験装置を使い体験を通じて防災意識の普及啓発に努めています。

焼岳噴火警戒避難訓練

飛騨神岡獅子祭り

◆ キャンプ砂防◆

国内の大学生を対象に、奥飛騨の大自然の中、中山間地での砂防工事や砂防事業が支えている地域経済活動などの体験学習を隔年で開催しております。

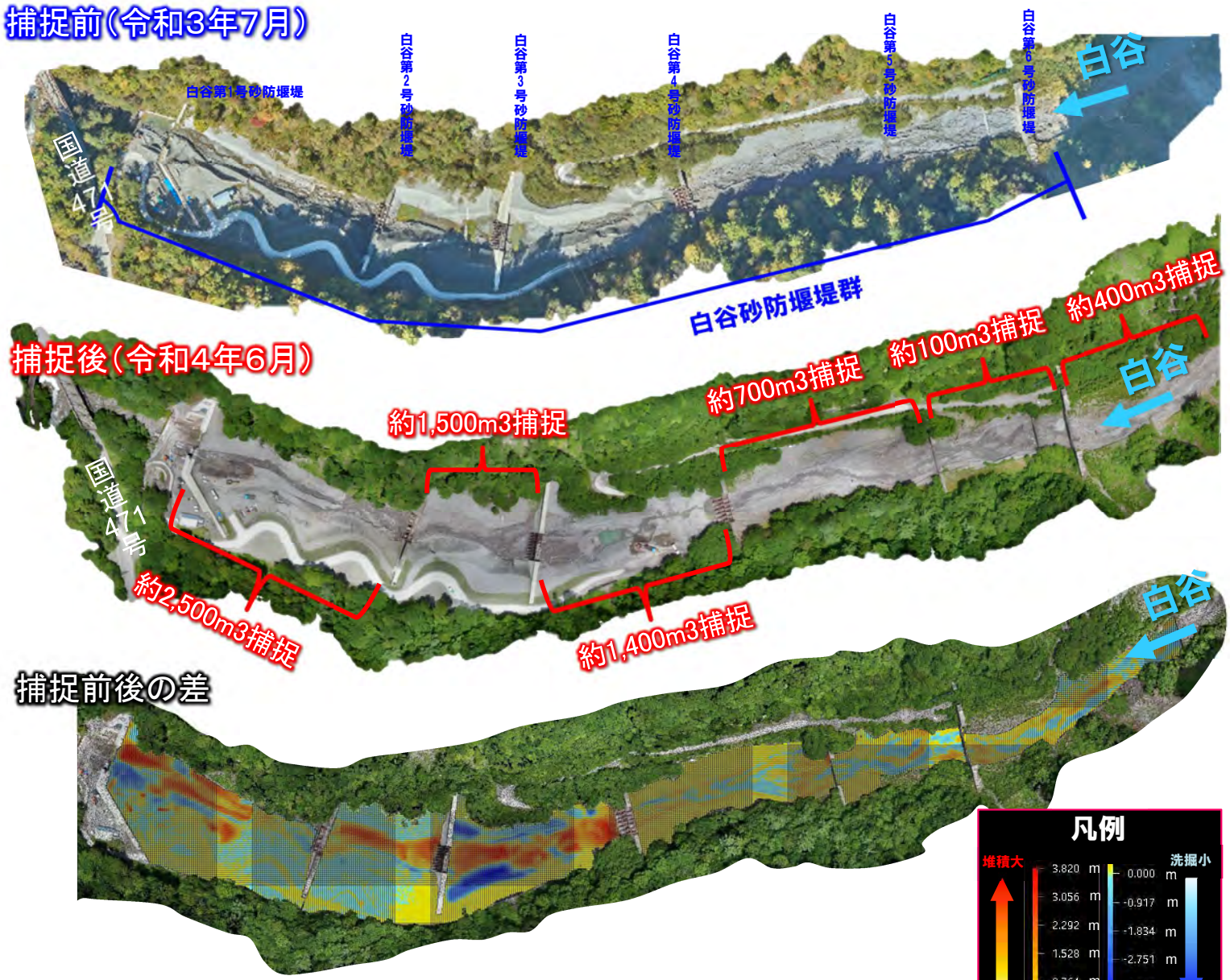
◆ 砂防教室（出前講座） ◆

「砂防と防災」について資料館や現場など、状況に応じて、解りやすく解説します。

■ 6. 事業の概要（事業効果：白谷土石流発生）

・令和4年6月21日14時40頃、白谷で土石流が発生
・白谷砂防堰堤群が約6,600m3の土砂を捕捉、白谷を渡河する国道471号や下流の観光拠点（奥飛騨温泉郷）への被害を未然に防止。

監視カメラが捉えた土石流流下の様子



■ 7. 危機管理能力の向上（関係機関との顔の見える関係づくり）

神通川水系砂防事務所では、合同防災訓練の実施やTEC-FORCE派遣などの実践を通じ、土砂災害に対する防災力向上に取り組んでいます。

● 「神通川・庄川上流域大規模土砂災害対策連絡協議会」の取組み

岐阜県内の神通川、庄川流域において大規模な土砂災害が発生した場合に備え、平常時から関係機関の連携を促進するため、平成26年12月1日に**高山市長を会長**とする**「神通川・庄川上流域大規模土砂災害対策連絡協議会」を発足しました。**

土砂災害に関係する国、県、市村の砂防、防災部局に加え、国道、県道管理者も参加することにより、**事業（砂防と道路）や整備局（北陸と中部）の枠を超えた連携ができ、**緊急時における道路情報の共有や通路確保等、より円滑な初動対応が可能となります。

合同防災訓練の実施

高山市長の挨拶

訓練実施状況

防災講演会の実施

十津川村役場 前村長による講演
（平成23年紀伊半島大水害について）

意見交換会

土砂災害懇話会の実施（白川村）

京都大学 宮田准教授による座学

住民の皆さんのグループワーク

【協議会メンバー】

○高山市、飛騨市、白川村
○岐阜県：危機管理部 防災課
　　県土整備部 砂防課
　　飛騨県事務所
　　高山土木事務所
　　古川土木事務所
　　飛騨農林事務所
○国土交通省
　　高山国道事務所
　　神通川水系砂防事務所
○林野庁：飛騨森林管理署

地域防災力を高め、安全・安心な地域づくりのために、防災訓練等を通じ
日頃から「顔の見える関係」を構築・強化することが重要。

● 実戦を通じた所内防災対応能力の強化（TEC-FORCE派遣等）

- 令和6年能登半島地震により石川県で発生した地震災害に対し、TEC-FORCE被災状況調査班（砂防班）として石川県に複数班を派遣しました。
- 被災状況調査は、公共土木施設や土砂災害危険箇所等において被災箇所（範囲）及び迅速な被害の状況の把握、危険度の判定、被害（概算）額の算定を行い、二次被害の発生及び被害の拡大防止、迅速な復旧、復興を支援することを目的に実施し、各調査結果は各被災自治体へ報告し、災害報告等に活用いただいています。
- なお、派遣隊員が持ち帰った経験を所内で共有し、危機管理能力の向上に努めています。

令和6年1月4日（木）～1月8日（月）

UAVによる河道閉塞状況調査
（河原田川）

関係機関との調整（猿谷）

令和6年1月15日（月）～1月21日（日）

現地状況調査（河原田川）

関係機関との合同現地確認
（市ノ瀬　河道閉塞）

■ 8. 地域と共に（防災啓発と観光振興のマッチング『飛騨の砂守ツアー』の開催）

神通川水系砂防事務所では、官民の関係機関が連携し、普段立ち入れない砂防堰堤などを巡り土砂災害との闘いの歴史を学びながら、全国有数の観光地として発展し続ける奥飛騨の魅力を満喫できるツアー『飛騨の砂守ツアー』を企画・開催しています。 また、ジオコースは工夫された『砂防ダムカレー』の昼食、全コースにて『SABOカード』と『飛騨の砂守バッグ』を参加者へプレゼントしています。

奥飛騨SABOめぐり
（高山市奥飛騨温泉郷）

SABOカード

砂守ジオコース
（高山市奥飛騨温泉郷）

SABOカード

砂防ダムカレー（ver平湯バスターミナル）

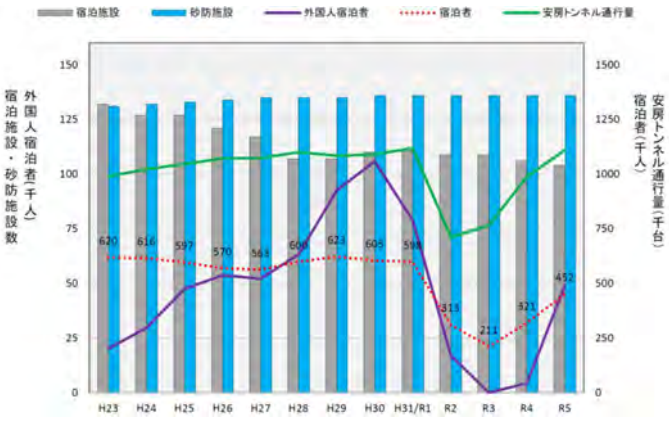
■ 8. 地域と共に（飛騨の砂守　地域経済活動の発展）

● 奥飛騨温泉郷の礎として

- かつては、出水のたびに土砂が流出し氾濫しました。砂防事業の進展に伴い土砂の流出が抑制され河道が安定し、日本有数の温泉観光地「奥飛騨温泉郷」に発展しました。

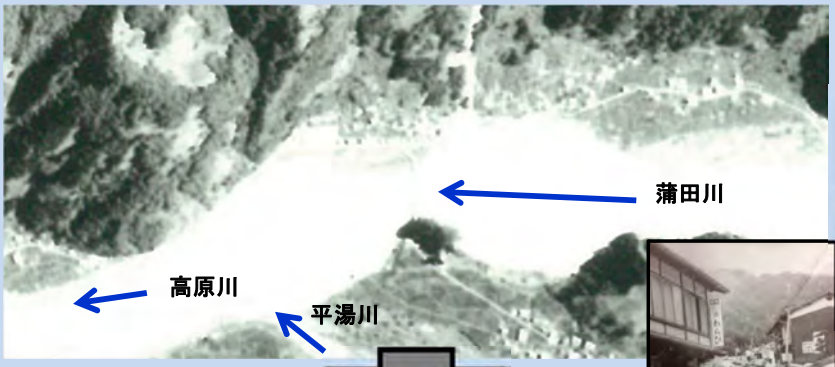
- 砂防施設周辺は、地域住民と協働で維持管理され、観光協会による四季を通じたイベントに活用されています。

奥飛騨温泉郷観光動態と砂防施設の推移



出典：高山市飛騨高山プロモーション戦略部 観光課

昭和22年頃の状況



現在の状況

蒲田川周辺でのイベント

『栃尾温泉桜ライトアップ』

『新穂高紅葉散策
夜空を楽しむ会』

『中尾かまくらまつり』

昭和22年頃の状況

現在の状況

平湯川周辺でのイベント

『氷室そばまつり』

『福地温泉夏まつり』

『平湯大滝結氷まつり』

砂防堰堤を活用した地域活性化事例（しのぶ砂防堰堤）

- 平湯川流域では土石流、土砂・洪水氾濫被害が繰り返し発生（昭和33年には河床が3m 上昇し、高山市奥飛騨温泉郷（旧上宝村）に甚大な被害）。
- **平成11年**、平湯川最下流に**「しのぶ砂防堰堤」**が完成（安全を確保しつつ、豊かな自然環境と調和し・地域振興拠点となることを目指し施工）。
- 全国的にも非常に珍しい**「砂防堰堤に入ることができる施設」**で、自然景観を意識した巨石積みで施されており、人と自然の交流拠点、地元温泉街の観光スポットととして活用されている。（地元が砂防設備周辺を維持管理するとともに、ライトアップやそば祭り等を実施）
- 令和5年11月、しのぶ砂防堰堤を中心に地域活性化に取り組んできた一重ヶ根町内会の取り組みが**「手づくり郷土賞」**として国土交通大臣より認定された。

防災教育（しのぶ砂防堰堤内）

しのぶ砂防堰周辺でのそば祭り

魚道付近のため池を活用したテントサウナ

「手づくり郷土賞」とは

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度。令和5年度で38回目。

しのぶ砂防堰堤上流ライトアップ

しのぶ砂防堰堤上流モニュメント

しのぶ砂防堰堤とたるまの滝ライトアップ

● 奥飛騨地域の環境への配慮など地域の皆さんと一緒に取り組んでいます

工事実施前に魚類の“お引っ越し”

登山道隣接工事現場での公衆Wi－Fi整備

～観光拠点を土砂災害から守る～

新穂高渓流保全工　竣工式の開催

国土交通省 北陸地方整備局
神通川水系砂防事務所

日　時：令和６年９月８日（日）１０：００～１１：００
場　所：岐阜県高山市奥飛騨温泉郷神坂地先

新穂高渓流保全工　事業概要

事業概要：　左俣谷、右俣谷は上流域が脆弱な地質のうえ、多雨多雪の気象条件も相成って土砂流出が発生しやすい地区です。また、蒲田川は河床が1/10 ～ 1/15と急勾配で川幅が狭く、隣接する宿泊施設や観光施設への被害が懸念されていました。このため、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を目的に、流出土砂をスムーズに流下させるとともに、流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設（渓流保全工）の整備を平成17年より進め、令和6年に完成しました。

事業内容：　砂防堰堤 2基、床固工 5基、護岸工 1式、帯工 1基、橋梁 2橋

事 業 費：　約７２億円

工　　期：　着工：平成１７年、完成：令和６年

会場の様子・開式前の歓談

受付の様子

新穂高に関するパネル展示

沢山の来場者にて賑わう

開式前の様子

テープカット・式辞・開式挨拶・祝辞・謝辞

田中（たなか） 明（あきら）　高山市長

〈開式の挨拶〉
高山市が合併し新穂高、槍ヶ岳の玄関口に加え豊富な温泉を求めて全国、世界から沢山の方々が訪れる地域である。今後も地元と一緒にＰＲに努めていき地域の発展につなげていけたらと思っている。改めて関係各位に感謝する。

金子（かねこ） 俊平（しゅんぺい）　衆議院議員

〈祝辞〉
地元の皆さんを中核にNPOが設立され、400人を超える方々が砂防協力者となった全国的にも類を見ない事業であり、本施設の竣工はその賜物である。100年越しとなる念願の事業へ尽力された関係各位に感謝する。

草野（くさの） 慎一（しんいち）　水管理・国土保全局砂防部長

〈式辞〉
新穂高地区は日本屈指の観光地の１つである。過去には土石流災害が発生し観光施設の被害が懸念され、平成17年から新穂高渓流保全工を着手し地元関係者の皆様のおかげで地域の防災の要として無事完成式を迎えられた。今後安全に努め、災害に強い地域づくりを進めていく。

竹腰（たけこし） 藤年（ふじとし）
新穂高渓流保全工整備促進協力会長

〈謝辞〉
関係各官庁・用地提供者の方々にご協力頂き、竣工を迎えることができた。本施設の竣工により 新穂高地区はもとより奥飛騨全体の安全が守られ、観光にも寄与できるものと確信をしております。携わった全ての関係者にへ感謝申し上げる。

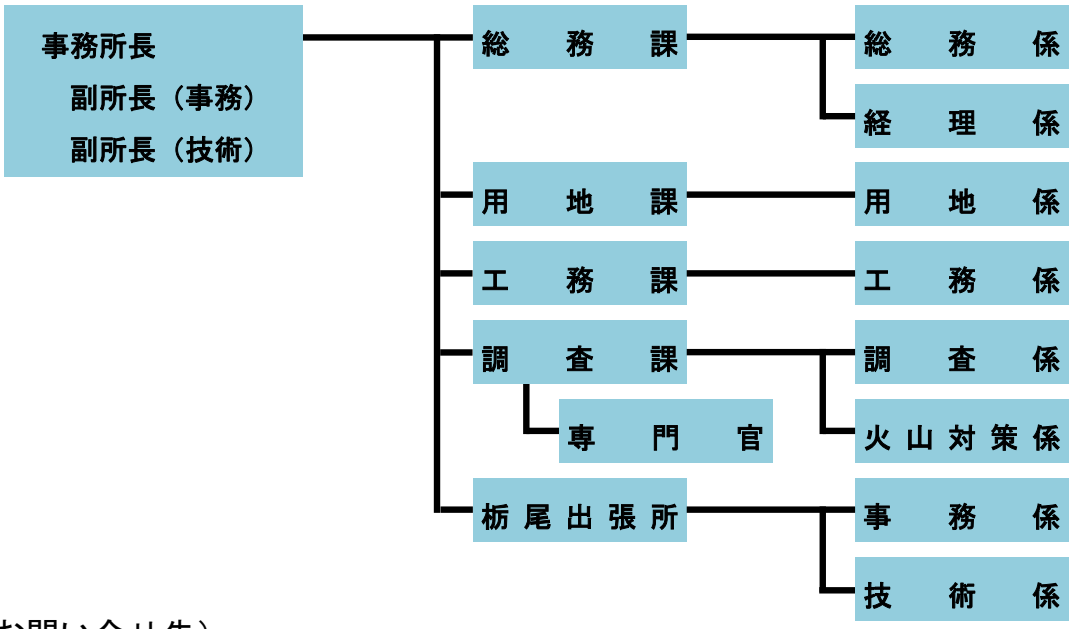
事　業　報　告

石井事務所長による事業報告

竣工記念碑除幕式

● 神通川水系砂防事務所について ●

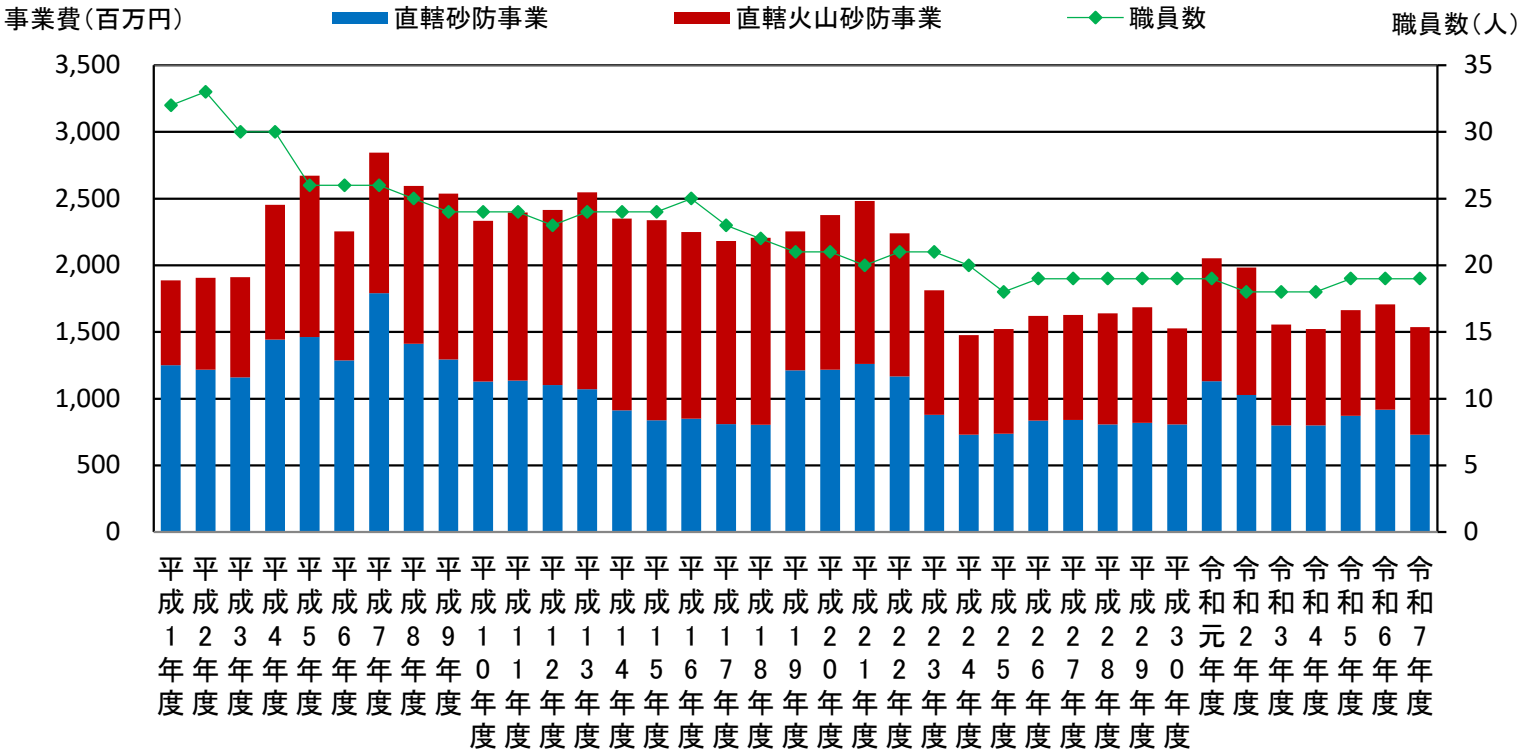
● 事務所組織図



● 事業内容（お問い合せ先）

総務課	事務所総合窓口、契約等事務に関する業務	TEL 0578-82-1220 FAX 0578-82-2461
用地課	用地取得、補償に関する業務	TEL 0578-82-1433 FAX 0578-82-2461
工務課	砂防工事、営繕に関する業務	TEL 0578-82-4650 FAX 0578-82-2453
調査課	砂防の調査、計画、設計に関する業務	TEL 0578-82-1221 FAX 0578-82-1411
栃尾出張所	工事の施工監督、砂防指定地内行為に関する窓口	TEL 0578-89-2052 FAX 0578-89-3553

● 事業費（当初予算）と職員数の推移



Memo

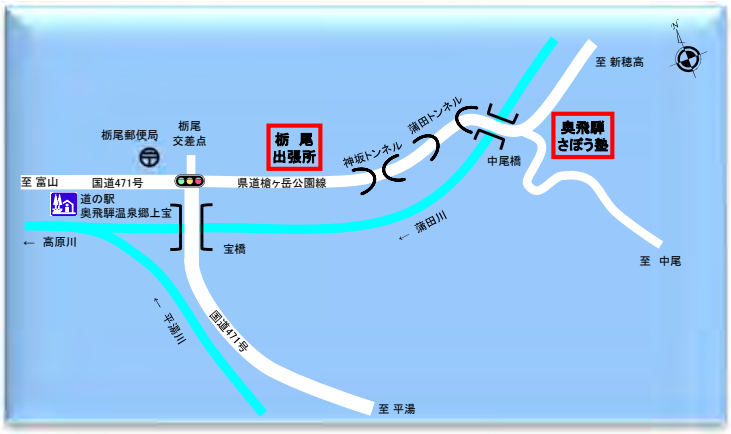
Memo

Memo

公共無線LAN
「FREESPOT」
サービス提供中!

1Fロビーにある砂防事業紹介コーナー
（利用時間：8:30～17:15　平日のみ）

土砂災害の歴史や砂防施設の役割などを紹介
（開館時間：5月～11月　9:00～16:30　休館日なし）



◇　本資料に関する問い合わせ　◇

神通川水系砂防事務所　　調査課　　TEL 0578-82-1221

◇ 事務所ホームページアドレス◇

神通川水系砂防事務所　　http://www.hrr.mlit.go.jp/jintsu/index.html

神通川水系砂防事務所	栃尾出張所	奥飛騨さぼう塾 （奥飛騨砂防資料館）
〒506-1121 岐阜県飛騨市神岡町殿1020番地4 TEL：0578-82-1220 FAX：0578-82-2461	〒506-1423 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷栃尾930番地 TEL：0578-89-2052 FAX：0578-89-3553	〒506-1422 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷中尾2番地6 開館期間　4月下旬～11月下旬 （冬季閉鎖）

R7.Ver1.01